

「盲人を癒やされる」

2023年10月06日

イエスは立ち止って、盲人を連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、また見えるようになることです」と言った。イエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」盲人はたちまち見えるようになり、神を崇めながらイエスに従って行った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。(ルカ18:40～43)

主イエスと弟子たちの一行は、多くの民衆も引き連れて、エルサレムに向かっていた。エルサレムにはエリコから山道を登っていく。エリコに近づいた時、一人の盲人が道端に座って物乞いをしていた。彼は目が見えないので、人の憐れみにすがって生きるしかない。今日も物乞いしていると、緊張した一団の群れが前を歩いて行くのを耳にした。「これは一体、何事ですか」と尋ねると、「ナザレのイエスのお通りだ」と聞いた。その時、彼は突然、「ダビデの子よ、私を憐れんでください」と叫び出した。先に行く人々は、叫び出した彼を叱りつけて、黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、私を憐れんでください」と叫び続けた。彼は、人づてにナザレのイエスという方が盲人の目を開け、病人を癒やし、「神の国」を説き明かしていると聞いた。その方はイスラエル人が待ち望んでいるダビデの子、メシアに違いないと思った。彼はメシアがエリコに来られるのを、一日千秋の思いで待っていた。今、そのメシアが通りかかっているのを知り、この時を逃してはならないと、大声で「ダビデの子よ、私を憐れんでください」と、人の制止もきかず、叫び続けたのである。一方、主イエスに従う弟子たちと民衆は、主イエスはこれからエルサレムに上り、革命を起こして、屈辱的なローマ支配からの独立、解放を達成してくれると期待していた。彼らは、この重大な時、盲人と関わり合っている暇はないと、彼を黙らせようとした。主イエスに近づきたい盲人と、引き離そうとする人々とのいさかいが起こったのである。この時、主イエスは盲人の叫びを聞いて、彼を連れて来るように命じられた。彼はよろよろしながら、主イエスの前に引き出された。彼が近づくと、「何をしてほしいのか」と問われた。彼は「主よ、また見えるようになることです」と答えた。彼の望みは十分に分かっているのに、あえて「何をしてほしいのか」と聞かれた。彼は直截に、「また見えるようになることです」と応じている。二人の会話はがちりかみ合っている。主イエスは、自分の望み、願いを自分の言葉と行動で表すことを求めておられる。

盲人の「見えるようになることです」という返答を聞いた主イエスは、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」と言われた。「見えるようになれ」という宣言で、盲人の目は即座に見えるようになった。主イエスの恵みの業に与ったのである。そして、「あなたの信仰があなたを救った」と言われている。救いを与えたのは主イエスであるが、強い求めを持ち、それを行動と言葉で表したことを顧みた言葉であろう。盲人はダビデの子・メシアを待ち続け、今、そのメシアによって目が開かれたことをどれほど喜んだらうか。神を崇めながら主イエスに従った。主イエスに救われた者は主イエスに信託する者になる。この場において、彼が受けた救いの出来事を見た人々は、主イエスが現わされた神の力を賛美した。救いは神から来るが、救いに与るために求め、望みを持ち、それに向かって体を伸ばすことを盲人の叫びは教えている。